

（第1面）

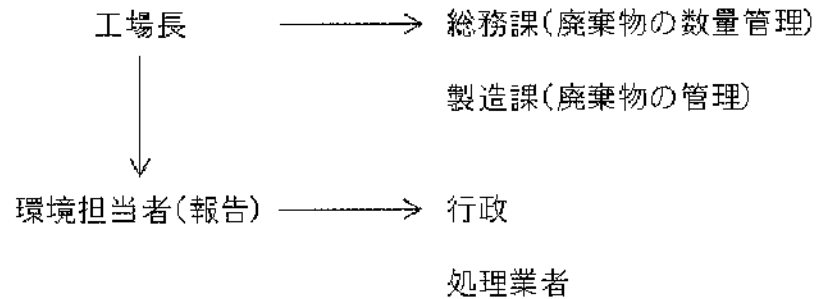
産業廃棄物処理計画書	
令和 6年 6月 24 日	
青森県知事 殿	
提出者 住 所 青森県上北郡おいらせ町松原二丁目132-10 氏 名 日本ハム北海道ファクトリー株式会社 青森生ハム工場 工場長 沼田 三千夫 電話番号 0178-52-1129	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	日本ハム北海道ファクトリー株式会社青森生ハム工場
事業場の所在地	青森県上北郡おいらせ町松原二丁目132-10
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食料品製造業
②事業の規模	製造品出荷額 209,587万円（令和5年度実績）
③従業員数	120名（令和6年4月時点）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①（現状のとおり）



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	廃プラスチック類
	排出量	1,509.75 t	99.24 t
	（これまでに実施した取組） 脱水汚泥・・・凝集剤変更による脱水汚泥含水率の低減。 廃プラスチック類・・・包装容器の厚さ見直し。（薄肉化）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	廃プラスチック類
	排出量	- t	99.24 t
	（今後実施する予定の取組） 脱水汚泥・・・令和6年4月より日本ピュアフード(株)青森工場へ排水処理業務移管。 廃プラスチック・・・廃プラスチック有価売却推進と他業者選定検討。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 動物性残渣の有価物と廃棄物の分別を容器ごとで分けている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 動物性残渣容器分別の継続監視。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和 5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	動植物性残さ	金属くず	その他の汚泥	ガラス陶磁器等くず
排 出 量	5.03 t	3.36 t	- t	0.23 t

動植物性残渣・・・動物性残さをバイオガス再生利用目的の原料扱いとする。
 金属くず・・・有価物化実施。
 ガラス陶磁器等くず・・・ガラス付帯別素材の分別。

【目標】

産業廃棄物の種類	動植物性残さ	金属くず	その他の汚泥	ガラス陶磁器等くず
排 出 量	5.03 t	3.36 t	- t	0.23 t

動植物性残さ・・・動物性残渣のバイオガス原料扱いの継続。
 金属くず・・・有価物化継続。
 ガラス陶磁器等くず・・・ガラス付帯別素材の分別。

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	- t	- t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	- t	- t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	1,509.75 t	99.24 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	- t	- t
	再生利用業者への 処理委託量	- t	- t
	認定熱回収業者 への処理委託量	- t	- t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者	- t	- t
	（これまでに実施した取組） 脱水汚泥・・・凝集剤変更による脱水汚泥含水率の低減。 廃プラスチック類・・・包装容器の厚さ見直し。（薄肉化）		

(第4面) - 2

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（令和 5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	動植物性残さ	金属くず	その他の汚泥	ガラス陶磁器等くず
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t
—				

【目標】

産業廃棄物の種類	動植物性残さ	金属くず	その他の汚泥	ガラス陶磁器等くず
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t
—				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和 5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	動植物性残さ	金属くず	その他の汚泥	ガラス陶磁器等くず
全処理委託量	5.03 t	3.19 t	- t	0.23 t
優良認定処理業者 への処理委託量	- t	0.17 t	- t	- t
再生利用業者への 処理委託量	- t	- t	- t	- t
認定熱回収業者 への処理委託量	- t	- t	- t	- t
認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者	- t	- t	- t	- t

動植物性残渣・・・動物性残さをバイオガス再生利用目的の原料扱いとする。
 金属くず・・・有価物化実施。
 ガラス陶磁器等くず・・・ガラス付帯別素材の分別。

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	廃プラスチック類
	全 処 理 委 託 量	- t	99.24 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	- t	- t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	- t	- t
	認定熱回収業者 への処理委託量	- t	- t
	認定熱回収業者以 外 の熱回収を行う業 者	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 脱水汚泥・・・令和6年4月より日本ピュアフード青森工場へ排水処理 移管。 廃プラスチック・・・廃プラスチック有価売却推進と他業者選定検 討。		
※事務処理欄			

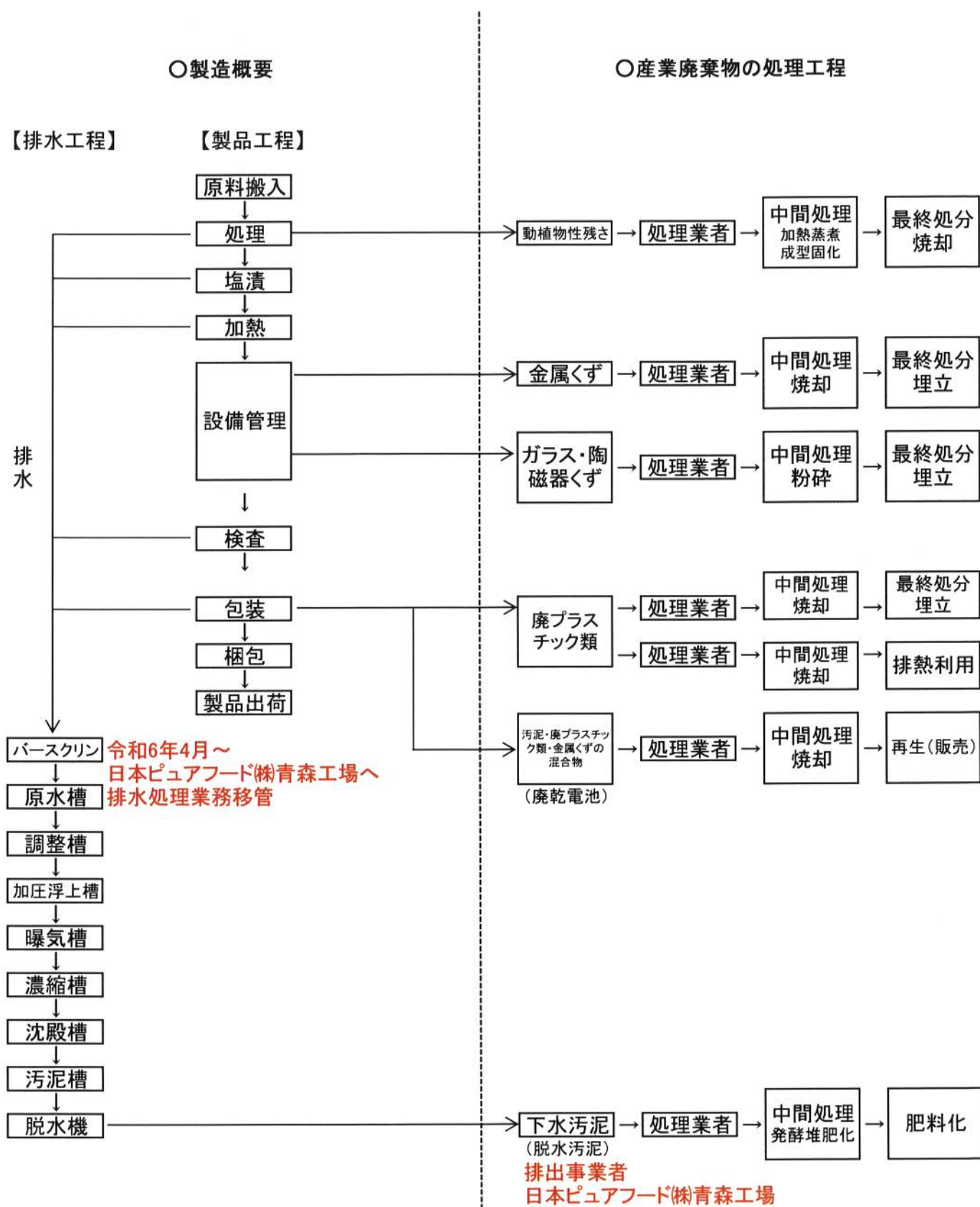
(第5面) - 2

【目標】				
産業廃棄物の種類	動植物性残さ	金属くず	その他の汚泥	ガラス陶磁器等くず
全 処 理 委 託 量	5.03 t	3.19 t	- t	0.23 t
優良認定処理業者 への処理委託量	- t	0.17 t	- t	- t
再生利用業者への 処 理 委 託 量	- t	- t	- t	- t
認定熱回収業者 への処理委託量	- t	- t	- t	- t
認定熱回収業者以 外 の熱回収を行う業 者	- t	- t	- t	- t
<p>動植物性残さ・・・動物性残渣のバイオガス原料扱いの継続。 金属くず・・・有価物化継続。 ガラス陶磁器等くず・・・ガラス付帯別素材の分別。</p>				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙①（現状）



産 業 廃 棄 物 処 理 計 画 書 の 〔 入 力 支 援 用 シ ー ト 〕

提出年度 令和 6 年度

←提出年度の数字をご記入ください、様式の第2面にある「繰年度実績」の年欄に反映されます。

品 別	現状/計画	計 算									
		A 排出量	B 自ら再生利用を行った量 (t)	C 自ら焼却処分を行った量 (t)	D 自ら中間処理を行った量 (t)	E 自ら廃棄処分を行った量 (t)	F 委託処理を行った量 (t)	G 委託処理を行った量 (t)	H 再生利用業者への委託処理量 (t)	I 認定焼却処理業者への委託処理量 (t)	J 認定焼却処理業者以外の委託処理量 (t)
産業廃棄物の種類		当該事業場において発生した産業廃棄物の種類ごとの量	Aの量のうち、自ら再生利用した量	Aの量のうち、自ら焼却処分を行った量	Aの量のうち、自ら中間処理を行った量	Aの量のうち、自ら廃棄処分を行った量	Fの量のうち、委託処理を行った量	Gの量のうち、委託処理を行った量	Fの量のうち、再生利用業者への委託処理量 (I、Jを除く)	Fの量のうち、認定焼却処理業者への委託処理量	Fの量のうち、認定焼却処理業者以外の委託処理量
下水汚泥	現状	1509.75						1509.75	0	0	0
	計画	0						0	0	0	0
廃プラスチック類	現状	99.24						99.24	0	0	0
	計画	99.24						99.24	0	0	0
動植物性残さ	現状	5.03						5.03	0	0	0
	計画	5.03						5.03	0	0	0
金属くず	現状	3.36						3.19	0.17	0	0
	計画	3.36						3.19	0.17	0	0
その他の汚泥	現状	0						0	0	0	0
	計画	0						0	0	0	0
ガラス陶磁器等くず	現状	0.23						0.23	0	0	0
	計画	0.23						0.23	0	0	0
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
合計	現状	1617.61	0	0	0	0		1617.44	0.17	0	0
	計画	107.86	0	0	0	0		107.69	0.17	0	0